共同通信社の
アジア発 グローバル随想



ニューデリー支局長
岩橋 拓郎

第2回
政権揺さぶった「ゴキブリ」の正体

イラスト・題字：長峯亜里

「最近の若者はイマイチ元気が……」。年を重ねるうちについうっかり口に出してしまいそうなセリフだが、インドでは最近、若者がニュースの主役に躍り出て、そんな勝手な憂いを吹き飛ばした。閣僚を辞任に追い込んだ一連の動きを振り返りたい。

ゴキブリが来る！

気温40度超の酷暑の6月6月。首都ニューデリー中心部の街頭に若者がたくさん集まっていた。中にはゴキブリを模したお面をかぶった人の姿も。架空の政党「ゴキブリ人民党(CJP：Cockroach Janta Party)」による「平和的な抗議」実施の呼びかけに応じ、モディ政権への抗議集会に参加すべく足を運んでいたのだ。その数は数千人にもなった。

ギョッとする名称のこの「政党」は前月に発足したばかり。最高裁判所長官が法廷でのやりとりの中で、失業中の若者をゴキブリに例えた。その侮辱に憤った米国在住のインド人男性、アビジート・ディプケ氏がパロディーとしてインターネット上で立ち上げた。すると次から次へと支持者、賛同者が拡大し、インスタグラムのフォロワーは2千万人を突破した。名称をまねされたモディ政権の与党、インド人民党(BJP：Bharatiya Janata Party)のフォロワー940万をあっという間に抜き去った。


「ゴキブリ人民党」支持者の若者

「ゴキブリが来る！　プラダンは去る！」。若者たちが路上の集会で叫んで要求したのはプラダン教育相の辞任だった。インド全土で5月に実施された医学系学部の大学入試で、一部科目の問題が事前に流出していた疑惑が浮上した。そのため試験がやり直されることになったが、約220万人が受験した大規模な入試、しかも人生を左右する重要な試験での不正で、受験生の絶望は大きかった。受験競争が苛烈なインドでは過去にも同様の不正が起きていて、政府は今回も不正を防げなかった。矛先は最高裁長官から教育相に向けられた。

全国行脚

抗議集会には米国から帰国したディプケ氏も参加した。1995年9月生まれ。インド西部の都市プネでジャーナリズムを学んだ後、渡米してボストン大大学院で広報を研究。インドの野党でソーシャルメディア担当のボランティアをしたこともある。

ディプケ氏率いるCJPは初集会の後、イン